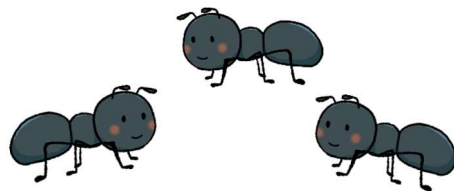


短い夏休みが終わり、1年間で一番長い2学期が始まりました。まだまだ暑い日が続きますが、マスク着用での新しい生活に苦戦しながらも元気に活動しています。

さて、7月の道徳の週のテーマは「**藍（なかま）**」でした。新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な行事が中止となっているからこそ、毎日過ごす集団の絆やお互いを理解することの大切さについて道徳科の授業を通して学習しました。

1年生 「アリアイランド」



3000匹のアリがナイル川をどうやって渡るのかを各自で考え、グループ活動で話し合いをしました。束になって回転しながら（支え合いながら）渡っていくことを知り、なかまと協力することの大切さを学びました。

- 私はこのアリのナイル川を渡る様子を見て感動しました。約3000匹ものアリが一丸となって川を渡っていく姿は勇敢でかっこいいなと思いました。また、私たちのようだなとも思いました。私たちも困難をみんなで乗り越える様子と非常に似ていて、また私もアリのようにみんなで助け合いたいなと思いました。
- アリたちもみんなで協力し合っていたので、家族や友だちでも、協力し合っていきたいと思いました。協力さえすればどんなに高く厚い壁でもぶっこわせる気がしました。固い団結力を持ち、アリのように勇敢に立ち向かえるようになりたいです。一部が楽するのではなく、みんなで苦労し、乗り越えるのが協力なのかなと思いました。
- 自分だけ楽するのではなく、みんなで協力していくことが大切だと思いました。それは、大きいナイル川を一人では渡れないし、協力しないとできないことがあるということが分かったからです。だから私はみんなで協力すること、相手のことを考えることが大切だと思いました。
- ナイル川を渡るアリのように自分だけが楽をしようとせず、周りの人たちと協力して助け合うことが大切だと思います。それは、ナイル川のように大きくて難しいことでも多くの人と力や知恵を活かせばどんなことでも成功させることができると思ったからです。だから私は、これからは協力するというを大切にしていきたいです。

2年生 「小さい「つ」が消えた日」



五十音村の小さい「つ」が家出をしたことで、言語が伝わらなくなり人間界がパニックになります。最初はバカにしていた村人たちが、必死で探しはじめるようになった気持ちの変化を考えることで、集団にいる一人一人の大切さについて学びました。

- 世界中に大切ではない人なんて一人もいないということを改めて気づきました。集団の中での生活で自分の役割の重要さについて深く考えることができました。これからの生活の中で私もみんなにとって必要とされる存在であるようにしたいです。
- 自分の少しの発言で相手が嫌な気持ちになったり、つらい気持ちになったりするのそういう発言は絶対にしないようにします。自分の役割や仕事を一人がしていなかったらみんなが困ってしまうので、クラスの中で全員の存在がとても大事だと思いました。
- 誰もが役割をもっていて、その全てが重要であり、かけがえのない存在なのだということが分かりました。集団の中では、一人も欠けてはならないもので、自分の役割は、責任をもってするようにしたいです。
- 一人ひとりの存在を大切に、一人ひとりの役割を輝かせられるようにするのが大切だと思いました。これから、一人の役割を無駄にすることが絶対ないようにしていきたいです。

3年生 「アイツとオレ」



成績やスポーツ能力など、互によく似ている「アイツ」と「オレ」。だから、「オレ」は「アイツ」に対抗心を燃やしている。性格が対照的な二人の会話を想像し、人とわかり合うことの大切さについて考えました。

- 私は、今日の授業でお互いの気持ちを理解して行動することが大切だと思いました。「友だちのつもり」ではなく、「本当の友だち」だと思ってもらえるような人になりたいです。
- 相手の意見を最後まで聞くことが大切だと思います。相手の意見を聞けば、なんとなく相手の思っていることがわかり、相手との接していきかたが分かると思うからです。
- 自分もめっちゃ似たような感じの人がいるのですごく共感できた。私も多分自分ができることは「できる」と周りに思っほしいから「オレ」みたいに嫌な感じはないけど主張すると思った。けど、そうではなく、自分が人のできるところを見つけてあげたいと思った。
- 自分の短所を受け入れるのは勇気のいることだと思うけれど、受け入れた分だけ成長できると思います。一時の恥よりこれからのために一歩前へと進む大切さを知りました。

ご意見欄

お名前

